

ひろしま郷土資料館だより

NO. 96



平成30年度 企画展「漫画『この世界の片隅に』に見る戦時下の暮らし」展示風景



ノリ養殖を紹介した展示ホール



『平凡倶楽部』原画展示

目次

- P 2 企画展「漫画『この世界の片隅に』に見る戦時下の暮らし」
- P 3 企画展「夏休みおばけの博物館」
- P 4 イベント「こうの史代さんとふりかえる昭和の暮らし」

- P 5 イベント「郷土資料館被爆建物案内」
- P 5-7 活動報告（平成30年4月～9月）
- P 7 博物館実習・インターンシップ
- P 8 平成30年度 後期展示紹介

企画展

「漫画『この世界の片隅に』に見る戦時下の暮らし」

会期：平成30年4月14日(土)～平成30年7月8日(日)

漫画『この世界の片隅に』は、広島出身の漫画家こうの史代氏によって描かれた作品です。

物語は昭和9年(1934)から同21年(1946)の広島・呉を舞台に描かれています。

江波のノリ養殖を営む家に生まれたすずは、昭和19年(1944)2月に呉の北條家へ嫁ぎます。慣れない土地で家族との絆を少しずつ深め、自分とその居場所を見出してゆく姿、空襲や原爆によって大切なものを失いながら、それでも日々を生きる姿は、読む人の心に強く響きます。劇中には、主人公すずをはじめとした個性豊かな登場人物や、在りし日の広島・呉の町並み、日に日に戦況が悪化し生活がきびしくなる中で、日々の暮らしを精一杯生きる人々の姿が丁寧に描かれています。本展では、漫画『この世界の片隅に』の中に描かれている、昭和初期から終戦直後までを中心とした戦時下の暮らしについて、パネルや実物資料をまじえて紹介しました。漫画の主な舞台は広島と呉になりますが、本展では広域的な視点でとらえ、広島を中心とした当時の時代背景や暮らしについてとりあげました。

昭和13年(1938)に成立した国家総動員法により、「不要不急」の民需品の生産は制限され、生活必需品は品不足になりました。政府は「ぜいたくは敵だ」「欲しがりません、勝つまでは」のようなスローガンのもと、国民に切り詰めた生活を強要します。昭和15年(1940)には、ぜいたく品の製造・販売が禁止され、砂糖、マッチ、木炭などの日用品が切符制に、翌16年(1941)には、米も配給制になり、ついで衣料も切符制となるなど、統制はさらに強まりました。同年には、金属類回収令が出され鉄などの金属も兵器製造のため回収されるようになり、様々なものが代用品に代わりました。戦争の長期化に伴い、物資不足はさらに深刻なものになりました。切符があっても物が手に入らなかったり、米の配給も芋や小麦粉などの代用品の割合が増えていきました。人々は、入手困難な日用品や食糧を求めて闇市に向いましたが、値段が高く、日々の生活は困窮していきました。漫画では、生活必需品や食糧が不足する生活の中ですずが野草を摘んで食材にしたり、材料を無駄なく使い満腹感が得られる調理法を試みるなど、様々な生活の工夫が具体的に描かれています。漫画のシーンとあわせて、金属製品の代用品や衣料切符、千人針、当時の生活道具などの実物資料を展示し、戦時下の暮らしについて理解を深めました。

また、主人公すずの実家の家業でもあったノリ養殖、中島本町や広島市内の風景、著者こうの史代氏の多様な表現が楽しめる『平凡倶楽部』の原画などを展示し、来館者のみなさまにもご好評をいただきました。

人々がどのように生活し戦争と向き合ってきたのかについて理解を深め、平和や生きることの尊さについて考えるきっかけになったのではないかと思います。

(正連山 恵)



展示ガイドを聞く参加者

企画展

「夏休みおばけの博物館」

会期：平成30年7月20日（金）～ 平成30年8月26日（日）

毎年、恒例になっております「おばけの博物館」。冬に「おばけ居ないの？」「あれは夏だよ」という会話をしたり、郷土資料館は知らなくても「おばけの博物館」は知っているとか、とにかく子ども達に絶大な支持を得ている企画展です。特に人気なのは、妖怪の事をしっかり勉強して、しっかり記憶していただくための体験型展示「おばけ屋敷」です。土・日曜日にはおばけがボランティアでやってきまして、子ども達を恐怖のどん底に突き落とし、忘れようにも忘れられない思い出を提供していただきました。しっかりおばけの事をお勉強できたかな？



おばけ屋敷のつくも神「瀬戸大将」「ぼろとん」「三味長老」

それとは別にテーマを設けて展示も行っています。恒例であるが故に「さて今年はどういった方向性にしようかしら」と担当者は頭を悩ませることになるのですが、今年は強力な助っ人があらわれました。広島在住のつくも神作家の八木一文さんから、つくも神フィギュアの展示をしませんかとありがた〜いお申し出があったのです。

みなさんが「おばけ」とか「妖怪」とか呼ぶものには、いろんなタイプがあります。昔からよく知られているのは、使い古した道具や年をとった生き物に不思議な力がやどり、妖怪に変化したというものです。例えば「唐傘おばけ」は古くなった傘が、尻尾が2つに分かれた「猫又」は年をとった猫がその正体です。このタイプの妖怪が「つくも神」と呼ばれています。

なにせ郷土資料館には古い道具がいっぱいあり、夜になるとつくも神になって歩き回っていきそうですから、うってつけのテーマです。さっそく展示をお願いする事にし、併せてつくも神さんたちの元の姿である古道具も一緒に展示し、使い方を紹介しました。つくも神も不思議な存在ですが、子ども達にとっては古道具も見慣れない不思議な物です。併せて楽しんでいただけたのではないかと思います。

（本田 美和子）

来年も趣向をこらして
展示するけえ、
是非おいでくださいのお。



記念撮影コーナーの
妖怪「毒酒売の老婆」



つくも神「おひつ」



つくも神「踊る猫又」

つくも神「おひつ」「踊る猫又」制作：八木一文／S P I C E

イベント

「この史代さんとふりかえる昭和の暮らし」

開催日：平成30年6月24日（日）（※昭和の茶の間・台所の再現は8月31日まで）

平成30年6月24日（日）、イベント「この史代さんとふりかえる昭和の暮らし」を開催しました。漫画『この世界の片隅に』に描かれた昔の暮らしをトークショーと再現展示で紹介し、戦前・戦中・戦後の市民の暮らしについて知っていただくという内容です。

①この史代トークショー

トークショーでは、漫画『この世界の片隅に』の作者この史代氏をお招きしました。

内容は二部構成で行い、第一部では当館職員による企画展「漫画『この世界の片隅に』に見る戦時下の暮らし」と常設展示室に再現した“昭和の茶の間・台所”のみどころ紹介、第二部では、この史代氏と当館職員による対談ということで、作品についてのテーマ設定や資料調査エピソード、連載を終えての思い、映画・ドラマの印象、広島とのつながり、企画展の印象・感想などを伺いました。

定員80名の募集でしたが、2倍近い応募があり、当日も満席のお客様ににぎわいました。会場はとても和やかな雰囲気、この史代氏の作品への思いや様々なエピソードなど、興味深いお話満載のイベントとなりました。



作品の思いを語るこの史代氏

②昭和の茶の間・台所の再現

以前から、常設展示室には昭和30～40年代の住宅の展示コーナーがあり、当時の生活道具を展示していました。今年度、「この史代さんとふりかえる昭和の暮らし」の開催にあわせて、展示コーナーをリニューアルしました。

これまでの茶の間を6畳に広げ、台所を増設しました。リニューアル後は、小・中学校の夏休み期間中に、



昭和の茶の間・台所での展示解説

平和学習にも役立てていただきたいため「戦時中の茶の間・台所」、それ以外の期間は、「昭和30年代の茶の間・台所」を展示します。生活道具はそれぞれ当時の道具を当館の収蔵品から選んで展示します。特に工夫したのは新設した台所です。2つの時代を別々に表すため、戦中展示は、カマドや人研ぎ流し台を設置し、昭和30年代展示では、ガス台やステンレス流し台を設置しています。もともと台所は土間で、後に床を張った設定にしました。

リニューアルにより、広島「戦中」と「昭和30年代」の2つの時代の生活を来館者に実感していただく一助になれば幸いです。今後もより分かりやすい展示を目指します。

（河村 直明、正連山 恵）

イベント

「郷土資料館被爆建物案内」

開催日：平成30年8月6日（月）

8月6日（月）の原爆の日に、平和関連事業の一環として、被爆建物である当館の建物（旧宇品陸軍糧秣支廠罐詰工場）についての案内を行いました。当館は原爆ドーム（竣工時は、広島県物産陳列館）よりも4年早い、明治44年（1911）の竣工です。73年前のあの日も月曜日でした。

当日は、当館のエントランスにある原爆の爆風で折れ曲がった天井の鉄骨なども見ながら、食糧難の戦中戦後に食べられた「江波団子」や「一銭洋食」の試食、昭和7年（1932）宇品港から出征する兵士や見送る市民の姿を映した貴重な映像も見ていただきました。戦中に旧宇品陸軍糧秣支廠罐詰工場（現当館）にお勤めであった女性（90歳代）も来館され、当時のことを懐かしんでおられました。また、学芸員実習の学生（7名）にも実習の一環として、お客様への説明や案内等をしてもらいました。

お子さんから若者～年配の方など幅広い年代の方にお越しいただき、平和を考える一日になりました。

（河村 直明）



被爆建物案内をする学芸員実習生



「一銭洋食」試食体験

活動報告

平成30年4月～9月

■ 教室事業

実施日	事業名	参加者数
4月21日（土）	親子教室「和菓子作り」	10組22名
4月28日（土）	教室「かしわもち作り」	21名
5月18日（金）	大人向け教室「ゆかたに似合う水引き飾り作り」	20名
6月 2日（土）	教室「藍でハンカチ染め」	24名
6月10日（日）	大人向け教室「藍染めTシャツ作り」	20名
6月30日（土）	教室「藍染めTシャツ作り」	30名
9月 7日（金）	大人向け教室「大人の染色体験」	20名
9月22日（土）	教室「月見団子作り」	18名

■ 夏休みわくわくイベント

実施日	事業名	参加者数
7月24日(火)	遊びの広場「昔の遊びをやってみよう！」	93名
7月25日(水)	遊びの広場「昔の遊びをやってみよう！」	70名
7月26日(木)	遊びの広場「昔の遊びをやってみよう！」	113名
7月27日(金)	遊びの広場「昔の遊びをやってみよう！」	121名
7月31日(火)	遊びの広場「昔の遊びをやってみよう！」	99名
8月 1日(水)	遊びの広場「昔の遊びをやってみよう！」	90名
8月 2日(木)	カンタン工作「手作りカッコウ笛」	117名
8月 3日(金)	カンタン工作「手作りカッコウ笛」	55名
8月 8日(水)	カンタン工作「わくわくブンブンごま」	86名
8月 9日(木)	カンタン工作「わくわくブンブンごま」	59名
8月10日(金)	カンタン工作「わくわくブンブンごま」	92名
8月14日(火)	カンタン工作「フラワーふきあげパイプ」	96名
8月15日(水)	カンタン工作「フラワーふきあげパイプ」	75名
8月16日(木)	カンタン工作「紙コップロケット」	53名
8月17日(金)	カンタン工作「紙コップロケット」	88名

■ ひろしま郷土史講座（前期講座）

実施日	事業名	参加者数
5月19日(土)	第1講「戦時中の広島市民の暮らし」	35名
5月26日(土)	フィールドワーク1「漫画『この世界の片隅に』のすずさんのふるさと江波を訪ねる」	19名
6月 9日(土)	第2講「広島平和記念資料館の下を発掘する」	35名
7月 7日(土)	第3講「戦争に行った広島市民」	25名



ひろしま郷土史講座・第2講を聴講する参加者



江波の町を訪ね歩いたフィールドワーク1

■ その他の事業・館外活動

実施日	事業名	主催	参加者数
4月 7日(土)	講演「『広島諸商仕入買物案内記』に見る明治前期の広島」	仏だん通り祭	10名
4月18日(水)	講演「宇品港」	宇品女性会	47名
5月 5日(土・祝)	フィールドワーク「白島歴史さんぽ」	minette	23名
5月25日(金)	講演「広島町の町名等について」	宇品公民館	119名
5月26日(土)	講演「古代山陽道と西国街道」	三輪明神広島分祠	44名
5月29日(火)	授業「郷土の風土と文化」	高陽東高等学校	5名
6月 3日(日)	工作指導「かんたんからくりコイノボリ」	広島城メモリアルデー	192名
6月10日(日)	ショップ商品販売	路面電車まつり	—
7月 5日(木)	体験指導「藍でハンカチ染め」	楠那公民館	5名

7月23日(月)	講演「広島城下町物語ー広島城下町の成り立ちと拡大ー」	広島青年会議所	122名
7月28日(土)	講演「広島を訪れた人々」	頼山陽文化財団	59名
8月25日(土)	講演「宇品地区の歴史について」	宇品長寿会第7クラブ	41名
8月25日(土)	講演「近世・近代の広島の歴史について」	トークイベント・広島の楽しい100人	25名
8月29日(水)	講演「『広島諸商仕入買物案内記』に見る明治前期の広島」	広島東ロータリークラブ	91名
9月 6日(木)	授業「ひろしま歴史再発見『広島諸商仕入買物案内記』に見る明治時代の広島」	竹屋小学校	50名
9月 8日(土)	講演「新開絵図に見る城下町の広がり」	三輪明神広島分祠	40名
9月11日(火)	授業「ひろしま歴史再発見『広島諸商仕入買物案内記』に見る明治時代の広島」	幟町小学校	100名
9月23日(日・祝)	講演「砂持ち加勢の歴史的役割について」	広島民俗学会	26名

博物館実習

平成30年4月～9月

今年度も学芸員資格取得を希望する大学生のための見学実習と館務実習を受け入れました。見学実習では、郷土資料館の概要や館務の実際に関する講義を受講していただいた後、バックヤード見学をしていただきました。

館務実習では、展示や教育普及事業の立案・準備、資料の取扱や梱包などの実務も学んで頂きました。また、夏休みの子ども向け教育普及事業ではアシスタントを、8月6日のイベント「被爆建物案内」ではガイド役も務めていただきました。

(篠原 達也)

見学実習：6月13日(水) 広島市立大学 8名

6月 9日(木) 県立広島大学12名

館務実習：8月1日(水)～8日(水) 6日間

県立広島大学、安田女子大学、長崎国際大学、琉球大学、計7名



資料梱包の実技指導



資料取り扱いの実技指導

インターンシップ

平成30年4月～9月

郷土資料館では毎年大学の夏休み期間中(7月下旬～9月末)にインターンシップ実習生の受け入れをおこなっています。今年は2大学から2名の実習生を迎えました。子どもさんが多く参加されてにぎやかな工作教室やおばけ屋敷で、工作の補助や接客に従事していただきました。(本田 美和子)

8月11日(土)～16日(木) 県立広島大学 1名

8月14日(火)～18日(土) 比治山大学 1名

平成30年度 後期展示紹介

企画展 『ごんぎつね』が語る昔の暮らし

平成30年9月4日（火）～ 11月25日（日）

新美南吉の童話『ごんぎつね』のストーリーを交えながら、童話に登場する昔の道具や情景を再現・展示し、昔の人々のくらしを紹介します。



展示風景

特別展 明治時代の広島

平成30年12月7日（金）～ 平成31年2月17日（日）

明治150年にあたり、廃藩置県や市制施行などを経て、城下町から近代都市へと変容していく明治期の広島の歴史を振り返ります。



◀『広島諸商仕入買物案内記 并二名所しらべ 全』より
広島細工町（現：大手町一丁目）にあった料理商 五階楼のようす

企画展 広島のお宝発掘

平成31年3月1日（金）～ 5月6日（月）

広島市内の遺跡から出土した数多くの埋蔵文化財の中から、よりすぐりの出土品を展示します。



◀2万年前の石器
（佐伯区下沖5号遺跡）
（公財）広島市文化財団
文化財課 提供

ひろしま郷土資料館だより No.96

平成30年（2018）10月31日発行

編集・発行 公益財団法人広島市文化財団 広島市郷土資料館

〒734-0015 広島県広島市南区宇品御幸二丁目 6-20

TEL:(082)253-6771 FAX:(082)253-6772

URL: <http://www.cf.city.hiroshima.jp/kyodo/>



編集後記

今年も、郷土資料館周辺の紅葉が色づく季節になりました。秋は、学校団体の子どもたちが展示見学や体験学習で連日来館され、館内には元気の挨拶の音が響きます。後期も展示や教室など、まだまだ魅力的な事業が目白押しです。ひきつづき、どうぞよろしくお願いいたします。（正連山）